

民泊の思い出

会長 山内 務

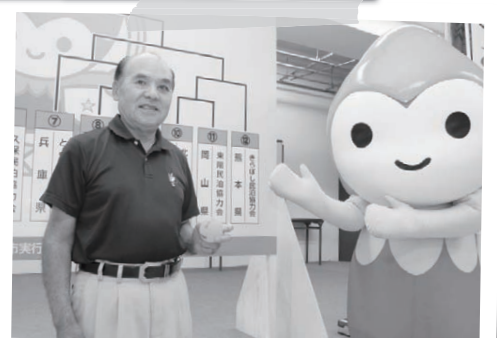
中央地区は、公民館が無く、拠点施設の選定で悩みました。当初はきらぼし館を拠点として、立ち上げたのですが、調理が困難であるため、急遽、下松中学校にお願いしたところ、快く了解いただき、活動を開始することができました。組織づくりもスムーズにでき、調理班の協力者も集い、早くスタートできたことは、良かったと思います。

中学校生徒350人を含む991人が参加した炎天下の学校周辺の清掃作業・体育施設の塗装作業は、大変でしたが、拠点施設が見違えるほどきれいになりました。中学生には、幅10メートルの横断幕2枚も作成していただき、見事な出来栄に感銘しました。

歓迎会は、きらぼし館で、和やかで盛大に行いました。選手と民泊家庭との出会いのシーンは印象的でした。スタッフとも交流でき、皆さんに喜んでもらったことはたいへん良かったです。

試合では多くの方に応援をいただきました。3位入賞を果たし、拠点施設の中学校に凱旋した際、全校挙げて選手を出迎えたことは、選手団に感動を与えました。拠点施設が中学校ということで、ハンディを感じていましたが、学生とのふれあいができたことは、大きな収穫でした。

民泊を通じて地域の皆さんとこのように協力し合い、結束できたことは、これからの地域活動に自信と勇気を与えてくれたかけがえのない貴重な経験でした。





民泊の思い出

調理班長 山内津多枝

大変だったけれど、終わってみれば、達成感に満ちた6ヶ月間でした。

まず、藤田まどかさんを始め、素晴らしいスタッフに恵まれたことです。若い人たちに学び、年の功も加わって、お互いともに学んだ楽しい時間を持つことができました。

下松中学校の調理室は、施設器具も新しく、広い調理場で、特に衛生面を考慮して手洗い消毒・野菜洗い・魚肉専用台・食器消毒・調理・配膳に区分して活用でき、作業がスムーズに行き、良かったと思います。ただ、食器の音やおしゃべり、笑い声などで生徒さんに迷惑をおかけしたのではないかとささか心配に思っております。

このたびは、学校側のご協力のおかげで、素晴らしい食事を選手の皆さんに大変喜んで召し上がっていただくことができ、心から御礼申し上げます。

スタッフの皆さんには、無理なお願いやきつい言葉を一方的に申し上げたのですが、快く対処してくださったことに心から感謝し、御礼申し上げます。

素晴らしい出会い、素晴らしい体験に感謝。素晴らしいきらぼし民泊協力会調理班。

がまだせ熊本

応援班長 内山俊雄

「がまだぜ」は、熊本地方の方言で「がんばれ」という意味です。

国体は、47都道府県を持ち回りで開催されます。日本人には、「お互い様」という文化があって、国体にはその助け合いの心が存分に発揮されています。

私たち応援班は、「がまだせ熊本」のパネルを作って、「がまだせコール」を叫びながら、一生懸命熊本チームを応援しました。その甲斐あって、熊本チームは見事3位入賞を果たしてくれました。

お別れ会の席で、熊本チームの皆さんから「がまだせは下松ではなんと言いますか？」と聞かれました。山内会長は、悩んだ挙句、「ぶちがんばれちゃ〜」と答え、お別れ会の締めも「ぶちがんばれちゃ〜」コールとなりました。

いつか熊本で国体の開催があったら、「ぶちがんばれちゃ〜」パネルを山口県選手は目にすることがあるかもしれませんね。



民泊の思い出

宿泊班長 河野利男

先般の山口国体は、民泊家庭を始め、自治会、自治会連合会及び地域関係者（小学校・中学校・公民館・商店街等）にとって一大イベントでした。

特に選手の民泊を引き受けた各ご家庭では、家族の方々の本当に温かいおもてなしで、選手の皆さんも大変満足されたようです。

市実行委員会主催の準備段階での注意事項や保健所のレクチャーを受けたときは、「本当に大丈夫か?」、「やれるだろうか?」と不安がいっぱいでした。

しかし、大会関係者のサポートもあり、何とか無事におもてなしができたことを本当にうれしく、また、引き受けてよかったと思いました。

選手との楽しい交流、地域の方々とのコミュニケーションの輪の広がりなど、この民泊システムの導入は、地域の活性化を促し、大成功だったと心から感じております。

私たちは、この国体で得た経験を自治会活動の発展につなげて行きたいと考えております。大会関係者の方々、本当にありがとうございました！！

民泊を引き受けて本当によかった！！



「感謝」

きらぼし民泊協会の皆さん、熊本県選手団を受け入れてくださり、本当にありがとうございました！

結束力のある、気合いの入った応援団に後押しされ、気持ち良くプレイすることができました。拠点となった下松中学校では、横断幕を作っていただいたり、校舎のいたるところに「熊本県チーム頑張ってください！」と書いたメッセージがはってあり、とても励みになりました。校長先生から毎日激励のお言葉をいただいたり、生徒さんからの明るく元気な挨拶で、中学校で試合以外の時間を快適に過ごすことができました。

真心のこもったお食事、毎日美味しくいただきました。早朝からの準備や、遅くまでかかって片付けをされ、かなり大変だったと思いますが、そういう姿を微塵も見せずに、いつも笑顔で迎えていただきました。

また、民泊の受け入れ家庭の方々においても、見ず知らずの私たちを受け入れるのに、若干の抵抗はあったと思いますが、皆さんの心配りにより、温かい家庭で我が家のようにリラックスして過ごすことができました。

山内会長をはじめ、チーム担当の瀬尾さん、新谷さん、きらぼし民泊協会の皆さん、常に笑顔を絶やさず声をかけていただき、私達の家族のように接して下さりありがとうございました。

皆さんの温かさに触れ、人と人との繋がりを改めて感じる事ができました。素晴らしい思い出を作っていたいたきらぼし民泊協会の皆さんに出会えたこと本当に感謝しています。

熊本県バスケットボール成年女子

監督 鹿毛美智子

